

# 学生による身延町子育て支援とその教育的効果

伊 東 久 実

## はじめに

身延山大学仏教学部福祉学科は、平成24年度から身延町子育て支援課の依頼を受け、子育て支援イベント活動の実施および学童保育教室の補助員としての活動を行っている。このうち子育て支援イベント活動は平成25年7月までに、合計7回の活動を実施した。また学童保育教室の補助員としての活動は、3～4名の学生がシフトを組み、年間を通して平日約3時間の協力を行っている。

身延児童館でのこれらの活動は、本学のディプロマポリシーを具現化する活動として、また、キャリア教育の一環として位置付けられる。本学福祉学科のディプロマポリシーは、「学科・コースにおける体系的学習を講義形式学習と実践形式学習に分けることにより、乳幼児から高齢者までを対象とした様々な福祉課題に直面している人に対して、地域の相談役として関わるができる能力を身につける。また、福祉課題を明らかにし、地域や社会に対して働きかけることができるようになるために、福祉に関する知識だけでなく実践的なコミュニケーション能力、課題分析能力、プレゼンテーション力などの力をゼミナールや実習等にて養っていくこと」である。ここに示された実践的な諸能力を養う実習の一つが、地域の身延児童館を拠点とした上記の子育て支援活動である。

本稿では、2012年1月から2013年7月までに実施された子育て支援イベント活動について、活動内容とその評価および学生にもたらされた教育的効果を明

## 学生による身延町子育て支援とその教育的効果（伊東）

らかにする。活動の内容評価については、イベント参加者（乳幼児の保護者と小学生）への質問紙調査の結果および学生の振り返りシートによって明らかにする。学生にもたらされた教育的効果については、1年間の活動を通してデプロマポリシーに記された実践的な諸能力を学生自身がどう自己評価したかを質問紙調査によって検証する。さらに、子育て支援イベントへの参加前と参加後では学生の子育てに対する意識・イメージの変化の有無を考察する。

### 1. 活動内容

子育て支援イベントが学生の主体的な活動として企画・運営されるようにとの配慮から、特に子育て支援活動に関心をもつ福祉学科の学生から構成されるこども会サークル「イノセント」を平成24年4月に設立した（25年7月現在こども学コースのサークル員12名、福祉学コースのサークル員1名）。第2回イベントからは内容の企画会議の招集、広報を含む諸準備、当日の運営をこのこども会サークルが担っている。

平成24年1月の第1回イベント「おにいさんおねえさんとあそぼう！」実施から平成25年7月の第7回イベントの活動内容及び参加者は表1の通りである。いずれも開催場所は身延児童館で、時間は10:30から12:00の活動である。

表1：子育て支援イベント「おにいさんおねえさんとあそぼう！」開催の記録

回	日時	内容	対象年齢	参加人数	学生数
1	平成24年 1月14日	・パネルシアター上演（おもちゃのチャチャチャ） ・造形遊び（スタンピングTシャツ、ニョロニョロ紙コップ、風船ロケットなど） ・親子ふれあい歌あそび	未就学児 と親	子11名 大人9名	4名

学生による身延町子育て支援とその教育的効果（伊東）

2	5月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エプロンシアター上演（まるさんかくしかく）</li> <li>・造形遊び（新聞紙ボールキャッチ）</li> <li>・身体遊び（的当てキック、ころころ丸ぶつけ）</li> <li>・親子ふれあい歌あそび（ハッスル糸巻き組体操、トンネルダッシュなど）</li> </ul>	未就学児と親	子14名 大人12名	8名
3	6月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペープサート上演（クイズこれなーんだ）</li> <li>・造形遊び（スライム・スライム時計作り、しゃぼん玉アート、玉飛ばし鉄砲など）</li> </ul>	小学校低学年児童	子7名 （うち小学生5名） 大人3名	7名
4	11月10日	児童館まつり（さかな釣り、ペットボトルあそび、新聞スティックあそび、トイレットペーパー芯積み、お絵かき各コーナーの当日補助員として協力）	未就園、未就学児と親	子33名 （うち小学生6名） 大人20名	7名
5	12月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型絵本</li> <li>・親子ふれあい歌あそび（クリスマスソングゲーム）</li> <li>・大型パズル宝さがし</li> <li>・造形遊び（ペットボトルイルミネーション、ころころ車など）</li> <li>・紙芝居</li> </ul>	未就園、未就学児と親	子19名 大人9名	7名
6	平成25年 5月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エプロンシアター上演（ねずみくんのチョコッキ）</li> <li>・大型絵本</li> <li>・外遊び（むっくりクマさん、ぞうさんとクモの巣など）</li> <li>・造形遊び（ジャンボしゃぼん玉）</li> </ul>	未就園、未就学児と親	子20名 大人10名	8名

## 学生による身延町子育て支援とその教育的効果（伊東）

7	7月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子ふれあい歌あそび</li> <li>・造形遊び（動物カタカタ、魚釣りなど）</li> <li>・「子育てについて語りましょう」（母親と大学教員による子育て話の交流）</li> </ul>	未就園、未就学児と親	子15名 大人10名	5名
---	-------	---	------------	---------------	----

内容の企画に際し学生が留意した点は、①対象年齢の発達に合った活動の選定 ②親に子どもと一緒に時間を過ごすことが楽しいと思える活動の選定 ③集団（複数人数）ならではの遊びの選定 ④前回の反省点を活かした企画であった。特に、②については親子がコミュニケーションを取りながら活動できる「ふれあい歌遊び」や親子共同作業で製作する「造形遊び」を取り入れ、イベントに参加した親子が自宅においても繰り返し手軽に遊べる内容を工夫した。また、③については集団で遊ぶ機会が少ない未就園児に対して、複数人数でなければ体験できない鬼ごっこや大型パズル、大きなしゃぼん玉作りなどの遊びの形態の工夫を行った。

さらに広報活動として、学生がポスターを制作し、子育て支援課の協力を得て地域のショッピングセンター、公民館、医療施設等に貼り出した。ポスター制作は、サークル員によって毎回交代で行われ、個性ある作品となっている。

## 2 評価

### 2.1 評価方法

各回の活動終了後に、参加者（乳幼児の保護者と小学生）を対象に活動内容について質問紙調査を実施した。①参加した子どもの年齢について、②プログラム全体の長さについて、③一番良かったと思うプログラムについて、④次回参加希望について、⑤意見・要望について尋ねた。また学生は、自由記述により活動の内容について評価を行った。調査は第2回イベントから開始した。

学生による身延町子育て支援とその教育的効果（伊東）



図1：学生が制作したポスター各種

## 2. 2 評価結果

参加者（乳幼児の保護者と小学生）への質問紙調査結果と、学生への質問紙調査結果をそれぞれ示す。

### 2. 2. 1 参加者（保護者と小学生）への質問紙調査結果

第2回から第4回を除く第7回までの参加者への質問紙全体の回答数は38である。（第4回にあたる児童館まつりは例外的活動であるため調査対象から除く）

#### (1) 参加した子どもの年齢について

1歳未満	3
1歳以上2歳未満	12
2歳以上3歳未満	13

学生による身延町子育て支援とその教育的効果（伊東）

3歳以上4歳未満	6
4歳以上5歳未満	1
5歳以上6歳未満	2
1年生	1
3年生	3
5年生	1



写真1 親子ふれあい遊び  
《ロンドン橋》

(2) プログラムの長さについて

長い	1
ちょうど良い	33
短い	4

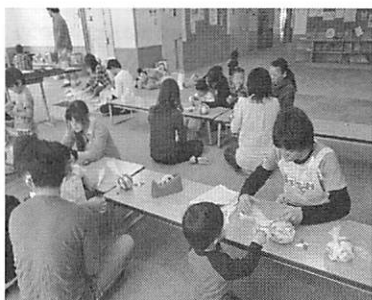


写真2 造形遊び《新聞紙あそび》

(3) 良かったと思うプログラムについて

手遊び	5
大型絵本・シアターの活動（パネルシアター、エプロンシアター）	0
親子ふれあい歌遊び	5
造形遊び	19
運動遊び（ボールあそび、鬼ごっこ）	4
その他（宝探し、大型パズル）	1

(4) 次回への参加希望について

参加したい	34
わからない	4（うち小学生3名）
参加したいとは思わない	0

（５）活動内容に対する意見、要望

《肯定的意見》

母親A：男の子なので、全身をつかった運動やボール遊びが楽しい様子でした。

母親B：作品ができ上がって子どもがとても喜んでいました。

小学生A：作った物で遊べてよかった。

小学生B：また来たいです。もっと長い時間やっていたい！

母親C：毎回楽しみにしています。また参加したいので機会をつくってもらえたら嬉しいです。特に造形活動が楽しみです。

母親D：ペットボトルでこんなにかわいいおもちゃができるなんてびっくりしました。子どもたちも喜んでくれてよかったです。

母親E：みんなで楽しく遊べてよかったです。大きなしゃぼん玉は家ではやってあげられないのでよかったです。

母親F：いろいろな遊びがあったのでよかったです。

母親G：保育園にまだ通っていないので、このような機会はとても勉強になるし、子どもにも楽しかったです。出来ること、出来ないことの両方があってよかった。お兄さんお姉さんという時間も大事にしたいと思いました。

母親H：自分が日中働いていて、子どもとふれ合う時間が休日しかないのととても良かったです。

母親I：親としてはとても楽しかったです。子どもが友だちとの交流をもてるのでありがたいです。

母親A：毎回楽しみにしています。次の機会も参加したいです。

（第7回に新規に取り入れた親同士の交流会「子育てについて話しましょう」について）

母親A：とても参考になりました。いざとなると相談内容が出てこなかったが、

## 学生による身延町子育て支援とその教育的効果（伊東）

周囲の方の相談事を聴いていると、「わが家も！」といった感じだったので本当に良かったです。

母親B：漠然とした不安を持っていましたが、先生が理論的に答えてくださったので良かったです。親同士だけで話すよりもリーダー的に先生がいてくれたおかげで話しやすかったです。保育園に行っていないので、情報を交換できたことや、自分も話せたことでスッキリしました。

母親C：いろいろな話が聞けてとてもためになりましたし、良かったです

母親D：子どもも自分から離れて遊べて良かったです。先生のお話がとても参考になりました。

母親E：すごく良かったです。また、自分が悩んでいたことも少し解決ではないけれど、気持ちが楽になりました。

母親F：親同士のコミュニケーション、相談などをゆっくりするには、完全なる別室で託児できればありがたいです。

### 〈改善を希望する意見〉

母親A：自宅から児童館まで遠いので、もう少し近場でも開催して欲しい。

母親F：短時間でもよいので、もっと定期的に工作会・絵本の読み聞かせ会があると嬉しい。

母親G：もう少し早い開始時間にしてはどうか。

母親G：一つの遊びを子どもが繰り返し飽きるまで行ってもよいのではないかと思います。

母親K：鬼ごっこなどは2歳児には難しいと思います。

母親L：同年齢を招集し、その年齢に合う活動内容を絞ったらどうか。年齢別のプログラムがあるとよいと思います。

以上の結果より、参加者の活動内容に対する評価を以下の7点に集約する。



## 学生による身延町子育て支援とその教育的効果（伊東）

- 1) 参加年齢は、1歳未満児から3歳児が全体の8割を占める。
- 2) プログラムの時間については、毎回1時間半の活動を行っているが、参加者の多くがちょうど良いと感じている。
- 3) プログラムの構成数については、多様にあることを肯定的にとらえている意見と、数を減らして子どもがじっくり遊び込めるようにしてはどうかという意見の両方がある。
- 4) プログラムの内容については、大型絵本・シアターの活動のように演じ手と見る側がはっきり分かれてしまう活動よりも、親子が共に身体を使い、活動に参加できるプログラムを希望していることがわかる。特に、造形遊びは満足度が高い。季節に応じて造形物を準備したこと（冬季にクリスマスイルミネーション、夏季にジャンボしゃぼん玉など）と、親と子が会話をしながら一緒に作り進めること、完成時に親子で達成感を共有できることが満足度を高めた一因と考えられる。
- 5) 次回への参加希望について保護者の9割以上が希望している。
- 6) 自由記述からは、プログラムの内容とは関係なく、子どもが日常では機会の少ない若者世代との交流や、入園前児の同世代交流を行えることに満足をしている様子が伺える。
- 7) 子どもと少し離れ、大人同士（保護者と教員）で行う子育てに関する話し合いは、母親にとって必要とされる活動である。

### 2. 2. 2 学生の自由記述による評価結果

第2回から第7回の学生への質問紙全体の回答数は31である。ここでは、当日の活動内容（プログラムに関する点）に対する自由記述の評価結果のみを示し、項目別の学生自己評価は次章に記す。

#### 第2回

・組体操の技が入園前の子どもには難度が高かった。体操の見本の見せ方

## 学生による身延町子育て支援とその教育的効果（伊東）

について練習が足りなかったため、多くの親子が活動を楽しめていなかった。

- ・造形遊びの道具が足りないため、活動に遅れる親子が出てしまった。

### 第3回

- ・作品は完成したが、その作品をうまく使えず楽しめていない子がいた。
- ・しゃぼん玉アートをしている子ども達が、多様な遊び方を見つけてくれて面白かった。

### 第5回

- ・大型絵本の読み聞かせについて対象年齢に合った選書や練習が必要だった。
- ・コロコロ車の製作は難度が高く、準備の段階での工夫が必要だった。

### 第6回

- ・鬼ごっこ等の集団あそびは参加した子どもの発達段階に合っておらず、ルールがわからず楽しめていない子どもが多かった。

### 第7回

- ・当日の活動を充実したものにするには、事前の準備や計画が重要である。

以上のように、学生の記述では、自らが企画し準備した活動内容が、対象となる子どもの発達の段階に必ずしも適していないことに対する反省が多い。また、親子が活動を十分に楽しむためには、事前の準備と練習が欠かせないことを実感している。さらに、自分たちが考えた活動内容は、子どもたちの創造性によって発展し得るという気づきを得ている。

## 3. 学生の自己評価について

### 3. 1 調査方法

各回の活動終了後に、活動に参加したすべての学生を対象に質問紙調査を実

## 学生による身延町子育て支援とその教育的効果（伊東）

施した。質問紙は「あてはまる（5点）」「少しあてはまる（4点）」「どちらでもない（3点）」「ややあてはまらない（2点）」「あてはまらない（1点）」の5段階評価で答えてもらい、自由記述欄も設けた。さらに、子育て支援イベントへの参加前と参加後では子育てに対する意識・イメージにどのような変化が生じたかについても考察するため、学生がイベントに携わる前と24年度の活動終了後の各回ごとにそれぞれで子育てに対するイメージについて記述してもらった。

### 3. 2 評価結果と考察

平成24年度の計4回（5、6、11、12月）の活動に参加した学生15人中、4回ともすべて参加した学生5人（1年生3人、3年生2人）の年間を通した評価を平均した集計結果は以下のとおりである。

#### 3. 2. 1 質問紙の調査結果

表2：年間の評価平均

質問項目	点数
1) 自分も楽しく参加できた	4.9
2) みんなと協力することができた	4.5
3) 新たな課題が見つかった	4.5
4) 子どもと積極的に交流できた	4.5
5) 活動全般を通して積極的に行動できた	4.3
6) 子育て支援への理解が深まった	4.3
7) 保育に関する技術が身についた	4.2
8) 自分に自信が持てるようになった	4.1
9) 自分の役割が果たせた	4.1
10) 子どもについての理解が深まった	4.1
11) 臨機応変に行動することができた	3.7
12) 保護者と積極的に交流できた	3.5
13) 自分自身で創意工夫した	3.3

## 学生による身延町子育て支援とその教育的効果（伊東）

以上のように、いずれの項目も3～5点の肯定的評価を得ている。したがって、学生にとって子育て支援イベントの活動は、授業では得ることが難しい実践的諸能力を養う有効な学びの場となっていることが伺える。特に、1)の項目「自分も楽しく参加できた」における評価が高い。自ら企画と運営に携った内容が親や子ども達に楽しまれて感謝の言葉をもらうことで、学生の主体性や参加意欲を高めていると考えられる。

### 3. 2. 2 自由記述

以下は、学生が子育て支援イベント活動に携わって得た感想の自由記述である。

学生A：紙芝居では、思っていた以上に進めていくのが難しくて、子ども達みんなにしっかり伝わっているのか不安でした。しかし、自分なりに感情をこめて読んで、面白いなと思ってもらえるように大きい声で読みました。読みながら子どもたちの顔を見ると、ほとんどの子どもたちが興味をもって聞いてくれて、すごく嬉しくて不安がなくなり、楽しく読めました。今後も事前の準備をしっかりしていきたいです。

学生B：子どもと一緒に活動に、自然と笑顔が出た。とにかく楽しかったです。一緒になって遊びました。子どもの動きに対して気を配りながらは大変でした。先輩の姿をみて、私も見習いたいと思いました。

学生C：子どもと普段接する機会があまりなかったので、良い経験になりました。前回の活動よりも、子どもや保護者の方と積極的に交流できたり、臨機応変に対応できることが多くなり、有意義な活動が出来た。さまざまな担当を持ってみて、たくさんの課題も見つかったので、次回は改善して楽しい活動をつくってきたい。

学生D：子どもと一緒に楽しみながら活動が出来た。各活動の目的を明確にもって行いたい。しゃぼん玉で水玉模様を作るだけでなく、星型の道具を使っ

### 学生による身延町子育て支援とその教育的効果（伊東）

たりして絵を描いたり、多くの色を使って花畑を作る子どもがおり、子どもたちの遊びの創造力に驚かされた。活動の中で子どもと保護者との距離感を感じることなく、保護者とも関わる事ができたと思う。

学生E：担当した活動では予想外のことが起き、うまく対応できなかった。イベントに参加し、親子で関わる時間や空間、また周りの人と関わる仲間の重要性を私自身が考えることができた。親子と一言で言ってしまうえば簡単な言葉かもしれないけど、愛情を深めること、スキンシップを図ることの大切さや、関われない困難さもあるのかもと感じました。親子で楽しいと思えることを共有し、また遊びたい、作りたいたいと思ってもらうことも大切だと感じました。同学年だけでなく、先生や他学年の協力があつたからこそよりよいものができたと感じています。

以上の記述から、学生は子育て支援イベントの活動を通して①保育に関する技術、②協調性、③企画・運営力、④子育て支援への理解、⑤積極性・主体性、⑥多世代と関わる力、⑦自己課題を明らかにする省察力、など幅広い領域において力量を形成していることが伺える。

#### 3. 3. 3 学生の子育て観の変化

子育て支援イベントへの参加前と参加後では学生の「子育て」に対する意識・イメージに変化があるかどうか、それぞれの時期に子育てに対するイメージについて記述してもらった。

質問：「子育て」ということばからイメージすることについて

##### 〈イベント参加前〉

学生A：子育ては大変でお金がかかる、自分の時間や寝る時間が少なくなりストレスがたまる、子どもはかわいい

## 学生による身延町子育て支援とその教育的効果（伊東）

学生B：不安、ストレスがたまる、難しい、大変そう、優しい気持ち、かわいい

学生C：成長して話が分かるような年齢になれば楽しいと思うが、幼児の時は大変そう

学生D：お金と時間がかかり大変そう、子育てで自分も成長できそう

学生E：育児は学んでいなければすべて戸惑いそう

### 《イベント参加後》

学生ABC：子どもはかわいい

学生B：（イベント内で楽しむ親子の姿をみて）自分も楽しんで子育て出来たら楽しいだろう

学生C：（親子で一緒に作業を行っている時の喜びの分かち合いのようなものを感じて）子育てを通して自分も子どもから得られるものがあると思う

学生D：父親の育児参加は重要

学生E：子どもと信頼感を育みたい

子育て支援イベント参加前は、学生の多くが子育てを否定的にとらえていたが、イベント参加後は肯定的なイメージを持つ学生が増えた。子育てを母親限定の営みであったり、母親から子どもへの一方向的な働きとしてとらえるイメージから、共同で行う営み、親子が共に育つ営みというイメージに変化していることがわかる。

### おわりに

1年間の子育て支援イベント活動を質問紙、自由記述から評価した結果は、以下のとおりである。

参加する保護者には、学生による子育て支援イベントは肯定的に捉えられ、

## 学生による身延町子育て支援とその教育的効果（伊東）

特に「造形遊び」や「ふれあい歌遊び」など親子参加型の活動が好評であった。また、プログラムの内容とは関係なく、異世代交流や入園前児の同世代交流の場として有効に活用されている。

学生にとっては、第3章に詳細を示したとおり多くの領域における力量形成に役立っており、授業では得難い実践的な諸能力を養う有効な学びの場となっている。活動を本格的に開始するにあたり、心を砕いたのは学生の主体的な参加であった。なぜなら、保育者は子どもたち自身による主体的な学びを援助する役割を担うからである。この点に関する自己評価、すなわち「楽しく活動に参加した」について学生は最も高い点数を記している。学生自身が自ら企画、運営した内容が親や子ども達に楽しまれる様子を目の当たりにして感謝の言葉をもらうことで学生の楽しく主体的な参加が促進されたと考えられるが、このように学生自らが主体的に活動に取り組むことは、保育者への学びに何より重要である。

また、子育て支援イベントを通して学生の子育てに対するイメージの変化も生じた。学生は、子育てへの肯定的なイメージを向上させるばかりでなく、子育てを多くの人との関わりの中で行い、自分自身も共に育つというイメージを持つようになり、このことは保育の社会化という現代的課題についての実践知を得ているといえよう。

今後の課題は、新たに活動内容に加えた母親の育児相談・交流会の継続のための内容検討と、多世代交流の幅を広げ高齢者との三世代交流イベントの企画、評価項目の中でも低い評価を得た点についての丁寧なフォローアップを行っていききたい。

### 注

身延町子育て支援課の調査によると、身延町の出生数は市町村合併が行われた翌年平成17年度の72人に対し、平成25年度は41人（見込み含む）に減少している。子ども

## 学生による身延町子育て支援とその教育的効果（伊東）

数は、平成20年度以降は、年間50人以上の児童が減少しており、年齢別にみても少子化により、0～14歳人口の減少が顕著となっている。また、平成21年度の調査によると、平成12年と比べて子育て期の女性の就業率は上昇傾向にある。このような中、学童保育教室の登録児童数は年々増加傾向にあり、平成25年度の学童保育教室利用率は身延町内全児童の45%となっている。

### 参考文献

- (1) 子育て支援プロジェクト研究会（2013）、『子育て支援の理論と実践』、ミネルヴァ書房
- (2) 澤津 まり子、立石 あつ子、柴川 敏之〔他〕（2011）、「保育学生による地域子育て支援の取り組み：2011年度活動報告」『就実論叢』第41号、就実大学、就実短期大学
- (3) 今村 美幸、山口 求、光盛 友美〔他〕（2011）、「親の子育て体験談を聴くことによる看護学生の子育て観への効果」『日本小児看護学会誌』第20号（1）、日本小児看護学会